

平成26年  
4月30日

# 病害虫発生予報 5月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

水田の農作業が始まります。水田で農薬を使用した時は、  
散布後一週間はかけ流しや落水をしないようにしましょう。

## < 目次 >

### I. 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

小麦：赤かび病	1
ナシ：黒星病	1
ナシ：ナシヒメシンクイ，アブラムシ類	2
半促成ピーマン：うどんこ病	2
半促成ピーマン：アザミウマ類	3
促成キュウリ：灰色かび病	3
メロン：アブラムシ類	4

#### 【その他の病害虫】

水稲，麦類，半促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ，メロン

#### 【防除所レポート】：病害虫発生予報の見方について

### II. 今月の気象予報

本文に記載されている薬剤は平成26年4月24日現在のものです。

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm))で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel:029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

フェロモントラップデータ随時更新中

## I. 今月の予報

### 【注意すべき病害虫】

#### 小麦

##### 1. 赤かび病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並と予想されている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 小麦の防除適期は開花始期～開花期（出穂期 7～10 日後頃）である。播種時期によって防除適期が異なるので、圃場ごとの生育状況をよく確認し、適期に必ず薬剤散布を行う。
- ② 開花期以降に赤かび病菌の子のう胞子の飛散好適日（日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上の条件を満たし、湿度 80%以上の日か降雨日とその翌日）が多い場合は、1回目の薬剤散布 7～10 日後に2回目の散布を行う。2回目の散布を実施する際は、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

（平成 26 年 4 月 11 日発表 病害虫速報 No. 1 参照）

#### ナシ

##### 1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 4 月下旬現在、発病果そう率（本年値 0.1%，平年値 0.2%），発生地点率（本年値 5%，平年値 22%）ともに平年よりやや低い。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の降水量，日照時間ともに平年並と予想され，発生を特に助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 果そう基部の病斑は葉や果実への伝染源となるため，見つけ次第除去し，園外に持ち出して適切に処分する。
- ② 薬剤防除は，圃場をよく観察し適期に確実に実施する。
- ③ 薬剤散布後まもなく強い雨が降り，降水量が多くなった場合は，薬剤が流亡することがあるので，速やかに追加散布を行う。
- ④ 薬剤は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

(ナシ 続き)

## 2. ナシヒメシンクイ (越冬世代～第一世代)

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 4月下旬現在、笠間市、小美玉市、土浦市、かすみがうら市に設置したフェロモントラップへの越冬世代成虫の誘殺数は、平年より多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① コンフューザーNを使用する場合は、第一世代以降の成虫を対象に5月中旬までに150～200本/10a設置する。
- ② 薬剤は、10a当たり300リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

## 3. アブラムシ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 4月下旬現在、寄生新梢率(本年値5.5%、平年値1.0%)、発生地点率(本年値40%、平年値19%)ともに平年よりやや高い～高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アブラムシ類は、特に新梢を加害する。被害を受けると葉が巻き防除しにくくなるため、初期防除を徹底する。
- ② 薬剤は、10a当たり300リットルを目安に、新梢に薬液がかかるよう丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

## 半促成ピーマン

### 1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 4月下旬現在、発病度※(本年値6.3、平年値3.0)は平年よりやや高い。

※発病度：病斑等をもとに算出した発病の程度を表す数値、最小値は0で最大値は100となる。

(半促成ピーマン うどんこ病 続き)

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病葉は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ④ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合、天敵への影響に十分注意する。

## 2. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 4月下旬現在、寄生花率（本年値 72.5%，平年値 34.2%），発生地点率ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルス病を媒介するので、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や花にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ③ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合、天敵への影響に十分注意する。

## 促成キュウリ

### 1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 4月下旬現在、発病果率（本年値 0.9%，平年値 0.1%），発生地点率（本年値 44%，平年値 7%）ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハウス内が多湿になると発生が助長されるので、換気、ダクト送風等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪く残った花卉や罹病部は早急に取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が乾きにくくなる午後からは行わず、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

## メロン

### 1. アブラムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 4月下旬現在，寄生葉率(本年値 1.4%，平年値 0.0%)，発生地点率(本年値 29%，平年値 3%)ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アブラムシ類はウイルス病を媒介し，多発するとすす病の発生原因となるため，早期に防除を徹底する。

#### 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネミズゾウムシ	発生時期:平年並 発生量:—	4月下旬現在，本田での生息数が最高に達する時期は，県南・県西地域では5月中旬～下旬，県北・県央・鹿行地域では5月下旬～6月上旬と予測される。
麦類	アブラムシ類	発生量:やや多い (小麦) やや多い～多い (二条大麦) 平年並 (六条大麦)	4月下旬現在，小麦では平年よりやや多く，二条大麦では平年よりやや多い～多く，六条大麦では平年並の発生である。
ピーマン 促成	アブラムシ類	発生量:平年並～ やや多い	4月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
トマト 促成	黄化葉巻病	発生量:やや少ない	4月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
促成 キュウリ	べと病	発生量:平年並 ～やや多い	4月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	うどんこ病	発生量:平年並	4月下旬現在，平年並の発生である。
	ミナミキイロ アザミウマ	発生量:やや多い ～多い	4月下旬現在，平年よりやや多い～多い発生である。本虫は黄化えそ病を媒介するので注意する。
メロン	つる枯病	発生量:平年並～ やや多い	4月下旬現在，平年並～やや多い発生である。収穫前日数に注意して防除を行う。
	菌核病	発生量:平年並	4月下旬現在，平年並の発生である。
	べと病	発生量:やや少ない	4月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	アザミウマ類	発生量:やや多い ～多い	4月下旬現在，平年よりやや多い～多い発生である。収穫後は，蒸し込み処理等，適切な防除を行う。

## 病害虫発生予報の見方について

病害虫防除所では、向こう1か月の病害虫の発生を予測した病害虫発生予報を毎月発表しています。予報の作成にあたっては、圃場巡回調査や病害虫防除員の情報等による現地における病害虫の発生状況、フェロモントラップ等による害虫の発生状況を過去のデータと比較しながら、向こう1か月の気象予報等を参考にして作成します。ここでは予報をご理解いただくために、予報の見方について説明しますので参考にして下さい。

### 1. 予報の構成

予報は、向こう1か月の間に多発生が懸念され警戒すべき病害虫や、例年その月に発生が問題となる病害虫について記載した「注意すべき病害虫」と、「注意すべき病害虫」ほどではないが、例年より発生が多い等注意を要する病害虫を記載した「その他の病害虫」で構成されます。その他に、調査結果等について解説等を記載した「防除所レポート」を掲載する場合があります。

○注意すべき病害虫

イチゴ

予報の対象地域

#### 1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	多い	県下全域

向こう1か月間の発生予報を、発生時期と発生量の「平年値」との対比により予報します。発生時期は、平年より「早い(6日以上)」、「やや早い(3~5日)」、「平年並」、「やや遅い(3~5日)」、「遅い(6日以上)」の5段階で判断しています。発生量は、「多い」、「やや多い」、「平年並」、「やや少ない」、「少ない」の5段階で表記し、過去10年の発生程度と今年度のデータを比較し、順位付けした上で判断しています。発生時期や発生量を特定しない場合は、「-」で表記します。

[予報の根拠]

- ① ○月下旬現在、被害葉率、発生地点率ともに平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

予報を推定した根拠を記載します。圃場巡回調査やフェロモントラップ等への誘殺状況等に基づく現在の発生状況、予想される気象条件が対象病害虫に及ぼす影響等について記載しています。

[防除上注意すべき事項]

防除を行う際に、注意すべき事項等について簡潔に記載しています。

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤防除の際は、薬液が葉裏や葉柄にも届くよう、十分な量を丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、気門封鎖剤を除き同一薬剤の連用を避ける。

## 病害虫発生予報の見方について(続き)

○その他の病害虫

主に発生量に基づいた発生予測について記載します。発生量や発生時期については、注意すべき病害虫と同様に各5段階で表記します。

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
促成ピーマン	斑点病	発生量：やや多い	○月下旬現在，平年よりやや多い発生である。

現在の発生状況等を中心に記載します。その他、特記事項や防除対策について簡潔に記載する場合があります。

### 2. 予報等に記載される用語について

病害虫防除所が発表する予報等の病害虫に関する情報では、いくつか特徴的な用語を使用しています。ここではそれらのうち、主に記載される用語について簡単に解説します。

- **発病度，被害度**

調査圃場における対象病害虫の発生状況等を客観的に把握するため、調査株を被害程度別に区分・集計して数値化したもので最小値は0で最大値は100となります。

- **発生地点率**

当所の圃場巡回調査で、対象病害虫の発生や被害が見られた圃場の割合です。

- **平年値**

過去10年間の調査データの平均値。気象データの場合は、過去30年間の平均値。

- **フェロモントラップ**

主に性フェロモンを誘引源として、対象害虫を誘殺する装置です。対象害虫の発生状況を把握するために利用しています。

- **予察灯**

夜間に電球を点灯し、光に集まる虫を毎日誘殺する装置です。害虫の発生状況を把握するために利用しています。

- **県予察圃**

農業総合センター農業研究所と園芸研究所に設置している圃場です。無防除圃場等における病害虫の発生状況を調査しています。

## II. 今月の気象予報

### 関東甲信地方1か月予報

(予報期間 4月27日から5月26日)

気象庁(4月24日 発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	30	30	40
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

#### [概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

<1週目の予報> 4月26日(土曜日)から5月2日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の40% 平年より高い確率40%

<2週目の予報> 5月3日(土曜日)から5月9日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

<3週目から4週目の予報> 5月10日(土曜日)から5月23日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。